

浜松地域の経済動向

2022年5月を中心に

半導体不足、原材料費および燃料費の高騰により製造業は足踏み状態となっている。非製造業は小幅ながら業況は改善した。

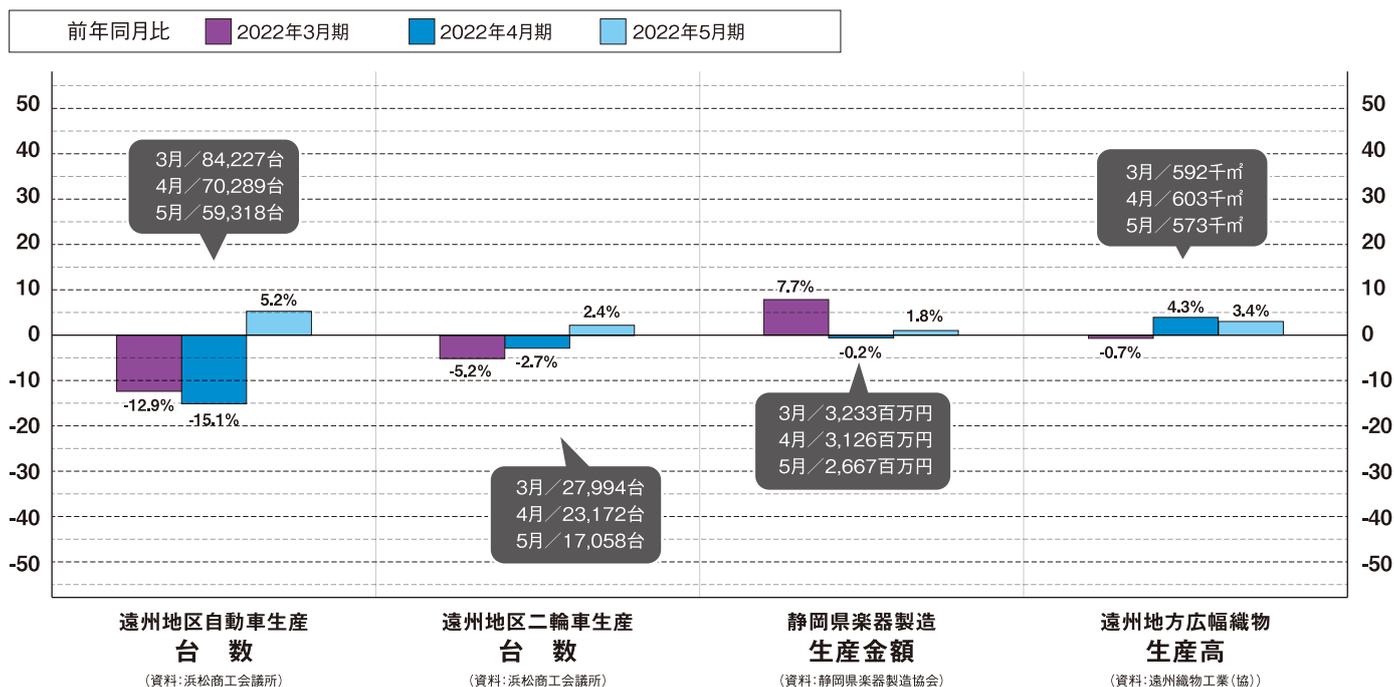
製造業は半導体不足、上海市ロックダウンによる物流の停滞、原材料費および燃料費高騰により足踏み状態となっている。非製造業では、まん延防止等重点措置が解除されたこともあり、浜松市内ホテル稼働率は7カ月ぶりに前年同月を上回った。

円安が続いておりガソリン価格は170円前後で高止まっている。

今後も燃料費や原材料費の上昇が続けば上昇分を価格転嫁できない企業の収益悪化が懸念される。



① 製造業 (主要経済指標)



自動車



2022年5月における遠州地区の自動車生産台数は、前年同月比5.2%増の5.9万台となった。排気量別に区分して前年同月と比較してみると、軽自動車は3.6%増、小型四輪車は3.2%増、普通自動車は96.1%増となった。国内向けは0.3%増、輸出は19.7%増と全ての項目で増加となったが、現状においては依然半導体不足と原材料価格の高騰が自動車生産に影響を与えているため、新型コロナウイルスが流行する前の水準には回復していない。

二輪車



2022年5月における二輪車生産台数は前年同月比2.4%増の1.7万台となった。国内向けは63.7%増、輸出は4.9%減であった。国内向けは大幅に増加したが、輸出は3カ月連続で前年同月を下回った。排気量別では、50cc以下18.6%減、51cc～125cc以下31.2%増、126cc～250cc以下20.7%減、251cc以上5.1%増であった。国内需要は活発であるが二輪車の生産についても自動車と同様に半導体不足と原材料価格高騰の影響を受けている。

楽器



2022年5月における生産金額は前年同月比1.8%増の26.6億円となった。分野別に前年同月と比較してみると、ピアノ9.8%減、電子・電気ピアノ1.2%増、電子オルガン51.5%減、管楽器31.8%増となっている。楽器生産金額は2カ月連続で30億円を超えていたが、5月はGWもあり割り込む結果となった。

繊維



2022年5月の生産高は前年同月比3.4%増の573千㎡となった。2カ月連続で前年同月を上回った。コロナ禍が緩和し、産地内の工場ではアパレルメーカーなどからの問い合わせが増え、回復の兆しが見え始めている。一方、原材料費や電気料金、物流費の上昇など製造コストの上昇を生地価格に転嫁できず、厳しい状況にある。

② 非製造業〈主要経済指標〉

運輸



2022年5月におけるタクシー乗車人員は前年同月比25.9%増の29.4万人となった。行動制限のないゴールデンウィークとなり、浜松まつりの送迎、買物での利用者、病院の送迎などのお客さまが戻り始めた。

観光

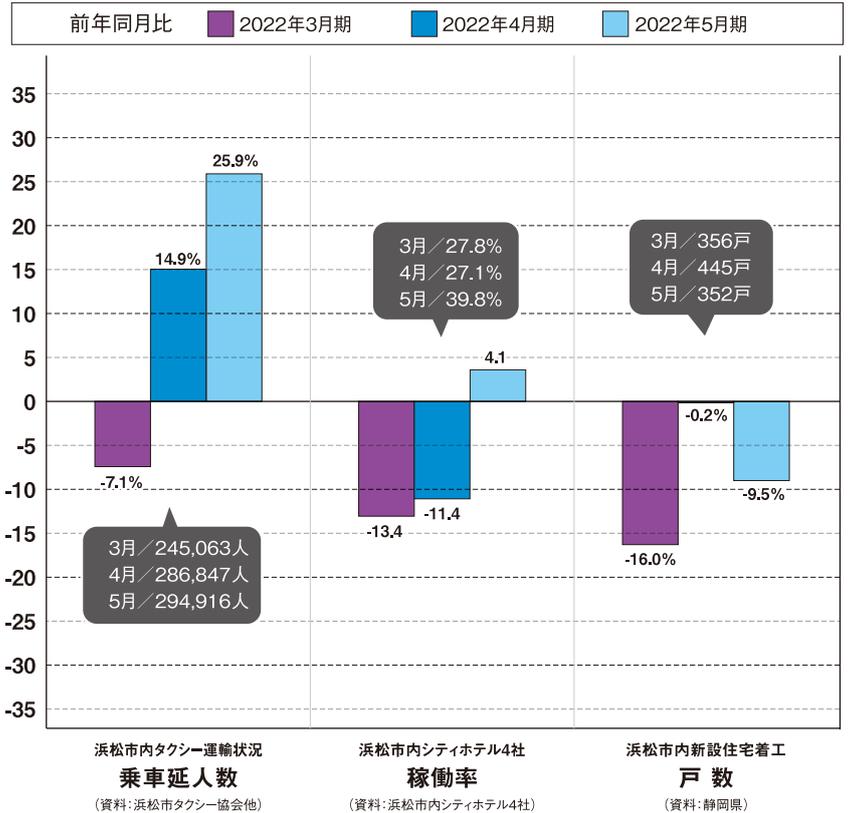


5月の浜松市内ホテルの稼働率は、前年同月より4.1ポイント高い39.8%であった。7カ月ぶりに前年同月稼働率を上回った。まん延防止等重点措置の解除で行動制限が緩和され、国内旅行などでホテル利用が少しずつではあるが増えている。

住宅着工



2022年5月における浜松市の新設住宅着工件数は、前年同月比9.5%減の352戸となった。持家は増加するも、貸家が36戸の減少となり、全体では前年同月比37戸の減少であった。静岡県全体でも188戸の減少で前年同月比10.5%のマイナスであり、貸家の着工が158戸の減少であったことが響いている。住宅着工の動きは鈍くなっていると言える。



③ その他〈主要経済指標〉

有効求人



ハローワーク浜松管内における2022年5月の有効求人倍率は1.10倍となった。前年同月との比較では0.13ポイント上回ったが、前月との比較では0.05ポイント下回った。3カ月連続で前月を下回った。全国(1.24)との比較では0.14ポイント、静岡県(1.28)との比較では0.18ポイント下回った。

倒産企業



2022年5月における県西部の企業倒産件数(帝国データバンク調べによる負債総額1千万円以上の法的整理による倒産)は6件、負債総額は5.6億円となった。前年同月との比較では倒産件数は4件増加した。前月との比較では3件減少した。静岡県全体の倒産件数は21件で、前年同月より7件増加した。今後、高騰している燃料費や原材料費を価格転嫁できない中小企業の収益悪化による倒産が懸念される。

ガソリン価格

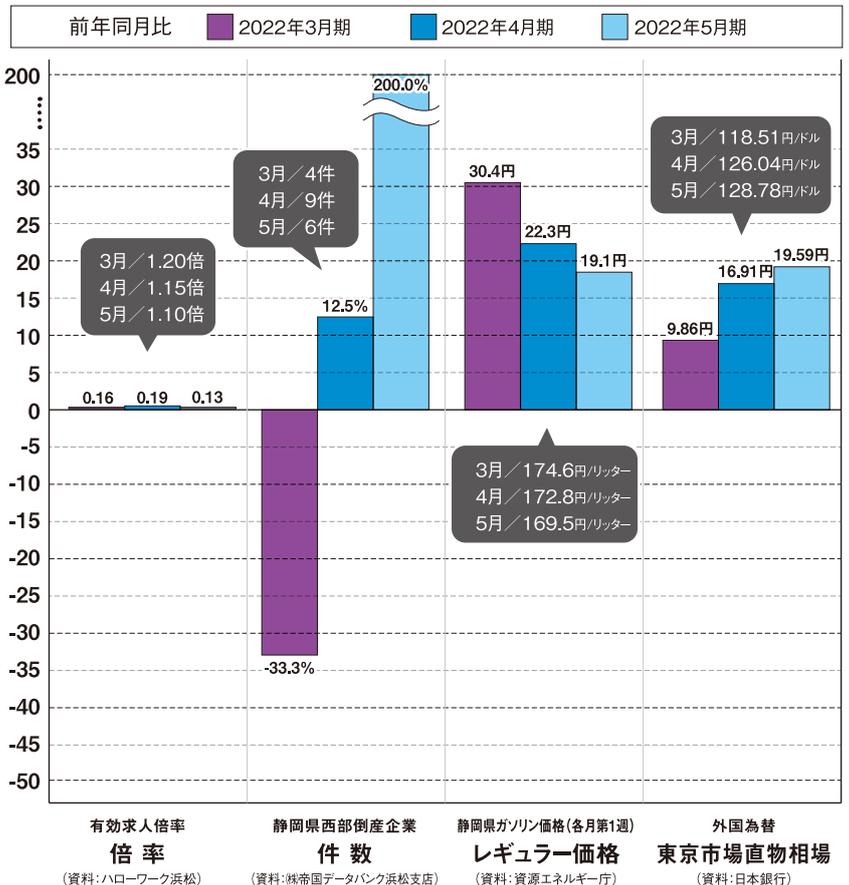


2022年5月第1週のレギュラーガソリン価格は1リットル当たり169.5円となった。前年同月との比較では19.1円の上昇であった。前月との比較では3.3円下降した。円安が続いており、産油国の増産も進んでおらず、ガソリン価格は高止まりとなっている。

外国為替



2022年5月の外国為替は1ドル128.78円、前年同月と比較すると19.59円の大幅な円安となった。前月との比較でも2.74円の円安であった。5カ月連続で前月より円安となっている。円安進行が原材料価格上昇の一因になっており、企業収益に大きな影響を与えている。



原材料価格の高騰続くも、まん延防止等重点措置の解除により業況DI改善

静岡県西部地域の中小企業の業況判断指数は、
2四半期振りに改善したものの、緩やかな改善にとどまり、
引き続き厳しい状況が続いている。

※業況判断指数……景況判断の基準としてDI(Diffusion Index)による分析で、各質問項目のプラス傾向割合からマイナス傾向割合を差し引いた数値のこと

	全体				うち小規模事業者			
	調査数	業況			調査数	業況		
		前期	今期	見通し		前期	今期	見通し
全体	617				257			
二輪車部品製造	55				20			
自動車部品製造	75				21			
機械部品製造	53				28			
楽器部品製造	19				14			
繊維製造	23				18			
卸売業	76				28			
小売業	60				28			
建設業	70				12			
不動産業	44				32			
飲食・宿泊・レジャー等	22				「2022年4月～6月期中小企業景気動向調査」より 浜松市内の中小企業を対象に、業況判断・売上高・経常利益等の DI値を、四半期毎に産業別・地域別等に算出する景気動向調査です。 経営者へのヒアリングをベースに算出しています。			

調査で聞き取ったコメント

※意見の多かったものを抜粋して掲載しています。

- 原材料の仕入価格が上昇し、利幅が減少している。(二輪車部品製造)
- 補助金を利用した案件の見積もりが増えている。(機械部品製造)
- バックオーダーはあるが、販売車両の不足で売上に結びつかない。(自動車販売)
- まん延防止等重点措置の解除後は、売上が徐々に回復している。(飲食)

